

かけはし

研究保育・研究授業ってなんのためにやっているの？

「先生は、だれとお話しているの？」

9月21日の3時間目、図工の学習の時間に子どもたちに言われたことです。その日は、2年1組の研究授業の日で、年間講師で来ていただいている武蔵野大学教授 箕輪 潤子先生が午前中から幼稚園の保育や小学校の授業を参観されていました。箕輪先生は、日常の保育や授業の中において、子どもの姿からどのような様子が見られるかを通して、研究を行ったり、大学で学生に指導したりしています。

私たちも、日々子どもたちの授業をするとき、どのようにしたら子どもたちにとって良い授業ができるか勉強してから臨みます。しかし、日々の授業を自分ひとりで振り返るだけではできることが限られてしまうので、教職員で1つの授業を見合い、それに対していろいろな意見を交わす目的で行うものが研究保育・研究授業です。



授業が終わった後には、忌憚のない意見が飛び交います。幼稚園の先生からも、幼稚園の視点から見た小学校の授業に対して意見がたくさん出てきます。さまざまな意見をもとにして、最後には箕輪先生にご指導をいただきます。子どもたちの姿を通して、よりよい保育・授業づくりに向けた講話をしてもらいました。

日常の中から、算数の学習へとつなげる

算数「長方形と正方形」 2年1組 山田篤 主幹教諭

これまでの経験からいろいろな形を概形として「まる」「さんかく」「しかく」として見ていました。それらの形を図形の性質を元にして、仲間分けをし、新しい形の名前を身に付ける学習です。さて、この形はなんでしょう？

本時の様子



子どもたちはこれまでの経験から『さんかく!』『しかく!』と声を合わせて言っていきます。10種類の形が出た後、「これを仲間分けできるかな」という問題に取り組みました。



これは、どっちのなかまだろう。

さんかくとしかくにわけばいいよ。

しかくのなかまはできたから、さんかくを・・・



グループで一通り仲間分けができたあと、確認をしました。ここまでは1年生の学習でやったことのできることです。ここから新しい視点が必要になりますが、子どもたちに自分たちで気付いてほしいので、「さんかくの仲間をさらに2つに分けるとしたら、どのようにできますか。」と問いました。すると・・・



このさんかく、かどがとがっているよ!
ということは、しかくも...

子どもたちは、かどが丸いものととがっているものがあることに気付きました。そこから学習を進めていき、

「三角形」「四角形」という名称がついていることを学びました。

身近に見られる形から、算数の内容へとつなげていくことで、子どもたちに興味関心をもってもらい、主体的に学習に取り組んでもらう姿が見られたと思います。

授業者 山田 篤より

算数の学習というと個人で考えることが多いですが、今回はあえてグループで活動することで友達の意見を聞いたり、みんなで考えたりする場面を作りました。いつもはなかなか意見が言えないような子も、考えが表現できていたように思います。

幼保小接続推進専門員 仲田 恵より

グループでの話合いで友達の考えを聞いて刺激を受け新たな考えが引き出されます。年齢が低いほど教師の助言に沿って話合いが進みますが、経験を積むと自分たちで道を切り開き話合いが進み考えがまとまっていくと思います。